

FROM MICRO TO MONUMENT

presented by Re. Future Collective

会期：2018年11月21日(水)~12月2日(日)
時間：11:00-19:00
Talk & Closing Event: 12月2日(日)18:00~20:30
会場：Bank Bed Gallery
Guest House 田家 (DENCHI) 内
〒111-0035 東京都台東区西浅草2-8-5



Bank Bed Galleryより、プロジェクト型展示「FROM MICRO TO MONUMENT」の開催をご案内申し上げます。

「FROM MICRO TO MONUMENT」とは、イギリスで設立されたアーティスト&建築家集団「**Re. Future Collective**」による研究プロジェクトです。今回、東京の狭小住宅建築についてリサーチを行う為ゲストハウス田家に2週間滞在します。Bank Bed Galleryの1Fスペースを彼らの思考を表現するワークショップの場として開放し、研究に活用します。会期中は自由に展示をご覧いただくことが出来ます。展示最終日12月2日(日)には、東京滞在中の研究経過をビジュアル化し、展示が完成する予定です。当日18時より、トーク&クロージングイベントを開催いたします。Re. Future Collectiveが東京で何を見て、感じるのか、是非お楽しみください。

狭小住宅研究プロジェクト「FROM MICRO TO MONUMENT」

バーミンガムに位置する18世紀のイギリス重要建造物2級に指定されているフォリー「Perrott's Folly」を、アーティストレジデンスやギャラリー空間に変容させるための研究です。

1758年、Perrott's Follyは裕福なバーミンガムの地主であるJohn Perrottが新しく獲得したRotton Park（英国バーミンガム）の土地を調査するための建築物として建てられました。Folly（フォリー。フランス語のfolieより「愚か」の意。）とは、自然の景観を高めるために建設された、費用はかかるが一般的に機能していない建築物であることから、EYECATCHERとも呼ばれています。

Perrott's Follyは当初、狩猟用のロッジや観測塔としてPerrottによって使用され、家族の資産として子供や孫に渡されました。1880年、バーミンガム・ミッドランド研究所によって取得され、パイオニア気象学者のアブラハム・フォレット・オスラーによる天気計測ステーションとして新たな用途が見つかりました。Perrott's Follyはバーミンガムの天気予報を100年近くにわたって予測した建物となりましたが、天気計測ステーションが閉鎖すると空っぽの機能しない建造物となりました。1980年代は地元のボランティア団体が建物を管理し、魅力的な遺産名所として再びオープンしました。彼らは、Perrott's Follyが「The Lord of the Rings : Two Towers」の著書J.R.R.Tolkienに影響を与えたことから、著者を祝う博物館としての開館を望んでいました。しかし、建物の管理に伴う費用が非常に高くなり、2005年に緊急安定化が実施された後、フォリーはほとんど開かれなくなりました。Re. Future Collectiveは2012年からPerrott's Follyに関わるようになり、塔を再建して現代アートの空間として永続して開放できるように働きかけています。

Perrott's Follyは、高さ（96ft / 約30m）がありますが、幅は狭い（直径3m）ため、設計において多くの課題があります。垂直空間とその周辺環境がデザインにどのように影響するかという点で、狭小住宅とフォリーの間に関係する点が数多く見つかりました。狭小住宅建築について更に学ぶことで、建物の垂直空間の活用性についての新たな見解に繋がることを期待しています。



FROM MICRO TO MONUMENTは大和日英基金に支援されています。



RE. Future Collectiveとは、アートと建築の非営利団体です。地域のコミュニティと協力して、未使用遺産の資産再生を目指しています。活動内容には、フィジビリティスタディ(実行可能性調査)、芸術に基づく遺産関与プログラム、建築デザイン設計が含まれます。RE : Future Collectiveの目標は、皆の声を聞くことができる、伝統的遺産を取り巻くオープンな対話を作り出すことです。不便な環境の地域にも定期的に訪れ、コミュニティで最も隔離された場所にも確実にプログラムを提供いたします。

Re. Future Collective は、ビッドライター、建築家、アーティスト、コミュニティプロデューサー、プロジェクトマネージャーから構成され、再生プロセスのすべての領域を網羅することができます。このインフラストラクチャーにより、建物の周りに安定した持続可能なネットワークを構築し、未来の世代にも開放され、楽しめる環境作りを提案しています。

refuturecollective.com

<来日メンバー>

Lizzy Jordan (Director)

主に遺産建物を使用して活動するアーティスト/プロデューサー。彼女は人間がいかに極端にスケールを感じているかを探究する、“Minumental”作品を制作。

Minumentalとは：小さなものから気持ちや規模に大きな(Monumental)変化をもたらす仕事のこと。

Lizzyは遺産空間と地域社会を繋ぐRe. Future Collectiveの地域型プログラムの運営もしています。

lizzjordan.co.uk



Jon Orlek (Director)

Huddersfield大学School of Art, Design and Architectureの博士号学生。UKとEUでプロジェクトを行う現代アート組織「East Street Arts」と共にアーティスト主導の住宅研究中。民族学研究者として、彼は執筆やマッピングを使用して芸術的仕事と家庭的仕事のぼやけを調査しています。シェフィールドの社会的に関与した建築集団Studio Polpoのディレクターも務めています。

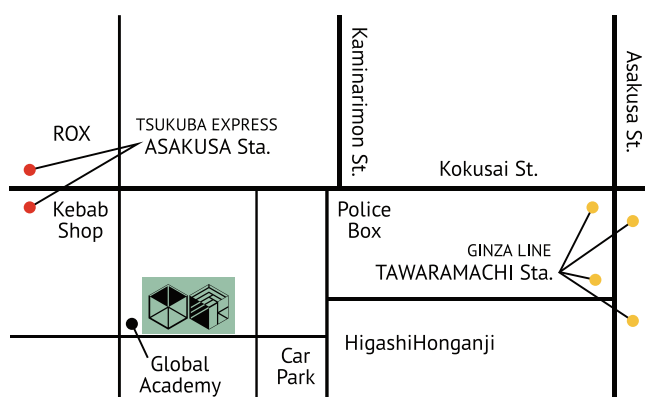
artistlivework.net | studiopolpo.com | eaststreetarts.org.uk



ゲストハウス田家(DENCHI)について

ゲストハウス田家は、[アトリエ]×[ギャラリー]×[ベッド]を合わせ、アート作品やデザインの制作、展示・販売までを行うクリエイティブ複合宿泊施設です。建築・デザイン事務所ウイングデザインオフィス（URL：www.wingdesign.net）によって設計・運営・管理されており、日本のアーティストの作品を発信すると共に、クリエイティブを身近に感じられるゲストハウスとして国内外の旅行者をお出迎えします。

アクセス



〒111-0035 東京都台東区西浅草 2-8-5

TEL 050-1194-0168

MAIL info@denchi-asakusa.jp

WEB www.denchi-asakusa.jp

f www.facebook.com/guesthousedenchi

@ guesthousedenchi

本プレスリリースに関するお問い合わせ

担当：山本・小林

TEL: 03-5830-7263 MAIL: bbg@denchi-asakusa.jp